

市長あいさつ

登米市は、北から南に北上川、迫川が貫流し、多くの支流が注いでいるほか、東部には北上山地の森林、中央部には肥沃な田園地帯、西部には水鳥の生息地としてラムサール条約湿地に登録された「伊豆沼・内沼」をはじめとする沼などを有しており、豊かで美しい自然環境に恵まれています。



私たちの生活は、本市の生物多様性に富んだ豊かな自然から得られる様々な恵みや、先人が育んできた自然と共生する知恵によって支えられてきました。

本市では、自然と共生したまちづくりの実現を目指し、平成 19 年に登米市環境基本条例を制定し、翌年には登米市環境基本計画を策定しまして、市民の皆様のご協力をいただきながら、環境保全の取り組みを行っております。

また、この環境基本計画に基づいて、市内の各地域では、市民や NPO、企業、学校などの多様な主体による環境保全の活動が行われていますが、市内の沼や河川の水質悪化や、放置されて荒廃しつつある森や農地及び年々その分布を拡大しつつある外来種生物などに加え、地球温暖化による影響など、私たちの身近な自然はいくつもの課題を抱えています。将来にわたって自然の恵みを持続的に利用できるように、適切な形で自然を保全・再生していくことや、豊かな自然と共生する生活の知恵や文化を引き継いでいくことが重要となります。

そのために、登米市ならではの自然と人の関わり方を踏まえて、生物多様性の保全と持続可能な利活用を実現するための取り組みや、先人の知識と経験及び、私たちが共有したい考え方の整理を行い、「とめ生きもの多様性プラン」を策定いたしました。

本プランに掲げる将来像を実現するため、市民や NPO 等関係団体、企業、保育・教育・研究機関、国、県、近隣市町などの多様な主体の皆様と連携・協働し、取り組んでまいりますので、なお一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、本プランの策定にあたりまして、東北大学大学院生命科学研究科中静透教授をはじめ、熱心にご検討いただきました「登米市生物多様性とめ戦略検討委員会」の委員並びにオブザーバーの皆様、貴重なご意見をいただきました市民の皆様や、関係者・関係機関の皆様に心から感謝申し上げます。

平成 27 年 3 月

登米市長 布施 孝尚

委員長あいさつ

～とめ生きもの多様性プラン策定にあたり～

2年間、登米市の生物多様性地域戦略に相当する、「とめ生きもの多様性プラン」にかかわらせていただきました。生物多様性地域戦略は、33都道府県、13政令指定都市、33市町村(平成26年11月30日現在)ですでに策定されています。登米市が策定作業を開始した時点では、東北の市町村として最初のものであります。登米市は、伊豆沼・内沼などのラムサール条約に指定された湖沼や湿地をもち国際的に知られているだけでなく、環境保全米でも全国をリードする活動をされています。その登米市であればこそ、生物多様性に関する高い意識があつて、東北地方で最初の地域戦略を策定することができたのだと考えています。



生物多様性という難しい言葉という印象があり、一般の方にはなかなか分かりにくいと言われます。さらに地域戦略などという怖そうな用語が続くと、とても一般の方々には理解してもらえない、ということで、「とめ生きもの多様性プラン」という名前になりました。しかし、生きもの多様性はもっと身近な問題です。毎日食べる食事の材料にいかにも多くの生きものが使われているか、着ている服や装飾の材料あるいはデザインのモチーフにどれだけ生きものがかかわっているか、を想像できれば、生きもの多様性は身近なものになります。「とめ生きもの多様性プラン」策定のプロセスは、これまで生きもの多様性とは関係ないと思ってこられたかもしれない方々に、生きもの多様性をもっと身近で重要な問題であることを知ってもらう作業でもありました。この2年間に、小学校でのワークショップや市民のみなさんとのフリーディスカッションを通じて、登米市民と生きもののかかわりの大切さやユニークさの一端を知ることができました。

ですので、生きもの多様性は守ってだけでなく、上手に利用して行くことも大切です。登米市はすでに環境保全米では有名ですが、地域に特有の野菜品種を守りながら特産品として売り出したり、ラムサール湿地でエコツアーを行ったり、地域の活性化にも利用できる場所があるかもしれません。「とめ生きもの多様性プラン」は、そうした点も含めて、これからの登米市民と生きものとの付き合い方を考えたつもりです。

「とめ生きもの多様性プラン」は、今回初めて策定したものですから、まだいろいろと問題点もあるでしょうし、改良すべき点もあると思います。プランができて終わりというのではなく、ワークショップやフリーディスカッションを今後も続けることにより、見直していただければと思います。その作業を通じて、文字通りマガンやアカトンボ、イヌワシをはじめとする生きものにあふれ、その意義を市民全体が理解して引き継ぎながら、活性化したまちづくりなどに活かしていただければと思います。

平成27年3月

登米市生物多様性とめ戦略検討委員会委員長

東北大学大学院生命科学研究科 教授 中静 透

目次

「とめ生きもの多様性プラン」の構成	1
はじめに	
私たちを支える生きもの命のつながり	2
第1章 策定にあたって	
1 「とめ生きもの多様性プラン」とは	4
2 登米市の自然環境をめぐる動き	6
3 生物多様性とは	7
4 人と自然の関わり方の変化と自然に迫る危機	10
5 本プランの対象地域	13
6 本プランの計画期間	13
第2章 登米市の生物多様性の現状と課題	
1 登米市の概要	14
2 登米市の自然環境の現状	21
3 登米市における人と自然の関わり	28
4 登米市の生物多様性の課題	34
5 環境保全に関する取り組みの状況	43
第3章 登米市が目指す姿	
1 基本理念	60
2 2050年（平成62年）の登米市の姿（将来像）	60
3 「2050年（平成62年）の登米市」の実現に向けての 基本的な考え方とエリア区分	63

第4章 行動計画

- 1 登米市全域の取り組み 67
- 2 エリアごとの取り組み 69

第5章 役割分担と進め方

- 1 各主体の役割 77
- 2 本プランの推進体制 78
- 3 本プランの進行管理 80

資料編

- 1 登米市生物多様性とめ戦略検討委員会名簿 83
- 2 登米市生物多様性とめ戦略検討委員会設置要綱 85
- 3 とめ生きもの多様性プラン策定の経緯 86
- 4 登米市生物多様性の保全 市民アンケート調査結果（概要） 88
- 5 愛知目標 94
- 6 用語説明 96